

# 一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を、  
肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズNO 65

## 市議選特集号 ③

### 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来16年間、毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝、夜の駅立ちは、通算3200日を超え5期目になりました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前での様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通して暮らしの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。今回は選挙期間中の駅前風景の特集。

### 市民主体の街頭演説への関心は



4月19日午前11時から午後1時まで、新越谷駅東口で、市民が中心になって演説会を開催した。

そもそも選挙とは、市民や地域に噴出する問題に対して、どのような背景や解決策があるのかその主体である

市民の役割りとは何かを、訴える舞台だと位置付けていた。

そのため、私は名前の連呼は一切して来なかったし、応援演説をして頂く議員や市民の方にも、白川を褒めたり、白川支持だけを訴えるのは遠慮して頂きた。自分自身が抱えている問題意識や活動を紹介して頂きたいと、お願いして来た。

その中で、今日は、越谷市で脱サラして農業

を営んでいる市民とさいたま市で子ども食堂を主宰している子育て中の女性にマイクを握ってもらった。

この女性の訴えに、多くの市民の皆さんの共感をよんだので、当日の演説内容を紹介する。

毎日の生活でせいっぱい、政治なんて難しくて分からないし考える暇がない、私がいれる一票で何か変わる訳でもない！！と思われるかもしれません。

私も2人の男の子の子育てに追われる毎日、今はまさに新学期／新年度で新たな生活のペースについていくのが必死な時期、とてもよく分かります。

でも、一生懸命頑張れば報われる、生活はいずれよくなる、幸せになるという時代はもう終わったかもしれない、子ども達の時代にどんな社会を残したいのか？立ち止まって、みんなで考えなければならないとふと思います。

私自身は現在40代いわゆるバブル崩壊後に超氷河期と言われる厳しい時期に社会に出て、終身雇用は崩壊し、多くの優秀な女性社員が派遣社員としてしか職がなく、転職を繰り返しながらキャリアアップを図りながらサバイバルする、というしのぎを削る時代に仕事をしてきました。すべては自分次第、努力次第で結果は必ずついてくる、と信じて頑張ってきましたが、気づけば30代後半になっての出産を経て、この社会は子どもを産み、育てながら仕事を続けるには無理がある、それまでのやり方では無理があると思い、5年前会社員生活にピリオドを打ちました。

大人たちががむしゃらに働いてきて、一生懸命築き上げてきた私達の日本という社会は、どんな社会でしょうか？！6人に1人、7人に1人の子どもは相対的な貧困と言われる社会、10-14歳の子ども達の死因の第1位は自殺というさみしい社会です。

子育てまっただ中でその中に身を置いてみて、キラキラした元気いっっぱいの笑顔が、小学校、中学・高校とあがるにつれて、疲れ、かげり、沈んでいくのに、猛烈な寂しさを感じます。

地域で子育てをしてみて、気づくことが色々あります。自分の子ども時代にかつてそうであったような、子ども達の元気な声が公園に響いていないこと、賑わいが失われ、地域は空洞化していること、多くのお母さん達が孤独に子育てをしていること。

(裏へ)

そしてこの子たちが大人になった時の社会、私達が高齢者・後期高齢者になった時の社会はどうなってしまうのだろうか？と思うと、当事者として今、何が出来るか？向きあわざるを得ません。

私はかつてキャリアコンサルタントとして、企業の女性活躍推進を支援し、女性がキャリアを積み、社会で活躍することを後押しする仕事をしていました。

保育園が足りないどこの地域でも問題になっています。確かに朝の7時から夜の7時8時まで預かってもらえる素晴らしいシステムです。でも、それだけの長時間そこで過ごす子ども達にとって快適な環境なのか？まだそこで働く保育士さん達にとって快適な環境になっているのか？健全な心身の育ちを見守られているのか？見過ごされてはならない視点です。選挙権を持たず、まして明確に自分のニーズを声にできない子ども達の声も拾っていかねばなりません。

また、義務教育課程である小学校・中学校に行けていない、あるいは積極的にいかないことを選択している不登校のお子さんもその人数が年々増えてきています。

少し前までは、本人に問題があるとする風潮もあり、そのような子ども達は引きこもり予備軍として学校に戻すことを目的とした支援が中心でした。

でも、これは、今の学校の何を維持し、何を変えねばならないか？真摯に考える最大のチャンスです。

また、既存の学校には行きづらく感じている子ども達にとって学校以外に多様な学びの場の選択肢を開発することによって、教育界に新風を吹かせられるチャンスでもあります。

今、私は地元で仲間とともに多世代交流会食、子ども食堂を運営しています。

子どもの貧困が問題になっていますが、現にひとりで晩御飯を食べる、いわゆる孤食の子ども達も多く地域にはいます。

家族そろって食卓を囲むという当たり前のことすら難しいご家庭も多いでしょう。

成長期の子ども達にとって、多世代でだんらんしながら食卓を囲み、親以外の大人に関わってもらった体験はかけがえのないものです。

そして、これは子どもだけの問題ではありません。

子育ては自分の家族だけで行うことはできません、助けて欲しい時には「助けて！」と言

えるお互い様で助け合える関係性を大人同士が地域でつくっていくことが大切です。

今は共稼ぎのご家庭も増えています。仕事の他に家事や育児を引き受け、負担の多くが母親にいつていることも多々あります。

それをかつての私自身がそうだったように自分の責任だから、と自己責任で抱え込んでしまう、その意識から変えていく必要があります。

子ども食堂はそのように地域全体で子どもを育てていく実験の場だと思っています。

今日は子育てを取り巻く環境という観点から私が普段感じている地域の課題をお話させていただきましたが、これらは、誰か特定の問題というより、みんなで解決しなければならないことだと思います。

誰かのニーズを満たすために、誰かに無理が行く、しわ寄せがある、ということはあってはならないし、誰が悪いかという犯人捜しに時間を費やすことも無駄なことです。

自分とは反対の意見や立場の人とも、心を開いて話し合っていかなければならない時代だと思います。課題が山積みであるということは、変えられる余地があるということでもあります。

議員さん達が答えを持っているというよりは、彼らは地域の多様な視点をすいあげて施策に生かしていくための推進役であり、主役はむしろ私達市民だとも言えます。

この選挙期間中は、普段思っていること、よく分からないな、やっと感じていることを議員候補の皆さん達に直接投げかけ、どう考えているのか？考えを聞き、意見交換や対話ができる最大のチャンスだと思います。

誰となら、自分たちの地域の未来をともにつくっていける関係性を築けそうか？そういう視点で候補者の方を見極め、4月21日（もしくはそれまでの期日投票）で、皆さんの大切な一票を投じていただければと思います。

そして、投票して終わりではなく、その後も自分たちの声が果たして議会に届けられているのか？議員さん達の活動を見守り、時に支え、ともに地域をつくっていくプロセスに参加していただけたらと思います。

この選挙が越谷の未来につながる大きな一歩になることを心から祈りながら、演説を終えさせていただきます。

（4月19日）